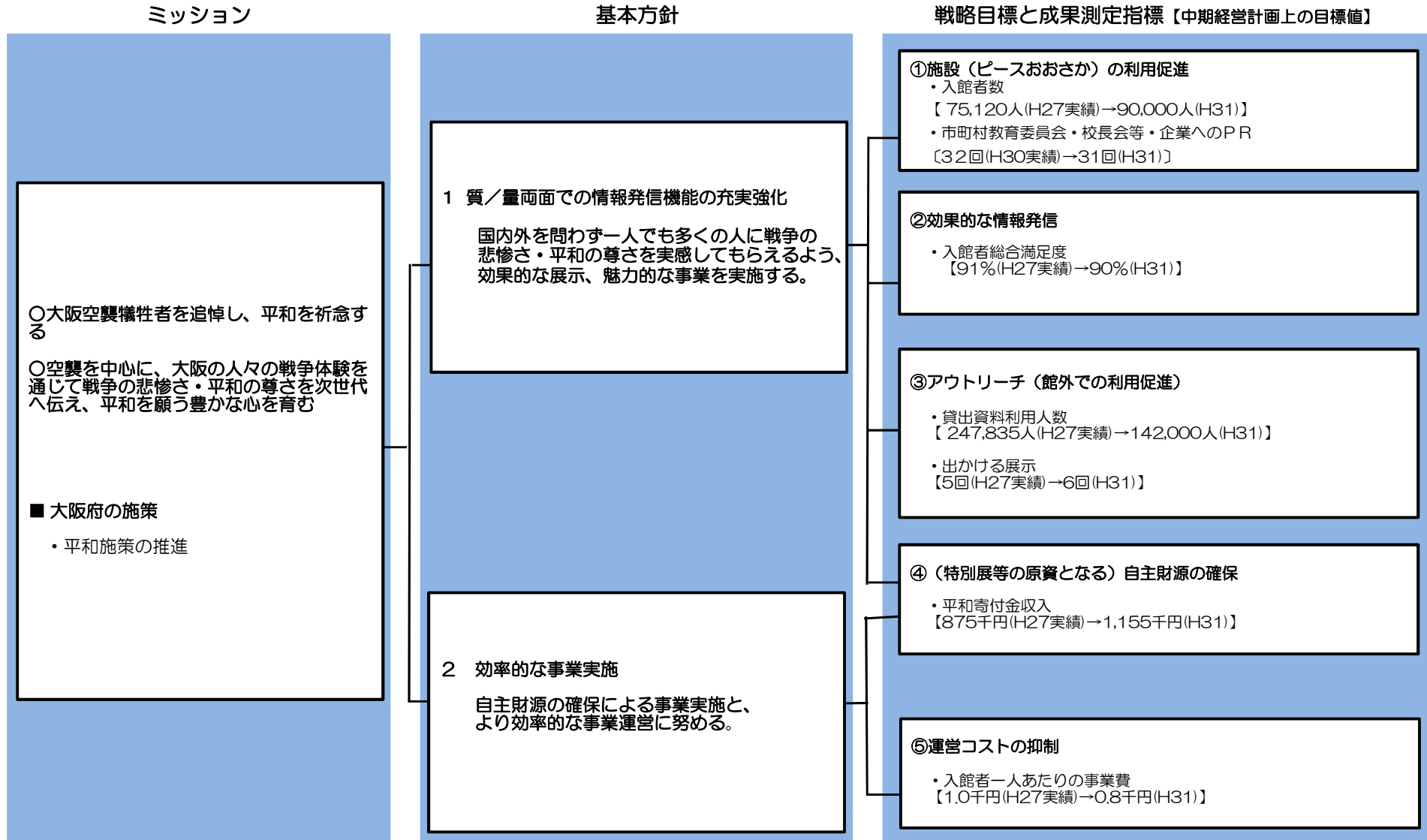


法人名	公益財団法人大阪国際平和センター
作成（所管課）	府民文化部人権局人権企画課

○ 経営目標設定の考え方



○ 平成30年度の経営目標達成状況及び平成31年度目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (H30)	H29実績	H30目標	H31目標	ウエイト (H31)	中期経営計画 (H27～H31)		H31目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	
						実績[見込]			H31目標	最終年度 目標		
① 施設(ピースおおさか)の利用促進	入館者数		人	20	68,586	78,000	78,000	20	90,000	90,000	前年度目標と同数とし、目標達成に向け引き続き利用促進を図る	
						× 69,539						
	市町村教育委員会・校長会等・企業へのPR		回	10	35	31	33	10	-	-		前年度実績を上回る目標値とする
						32						
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)											具体的活動事項	
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>○当財団は、①大阪空襲犠牲者を追悼し、平和を祈念する ②空襲を中心に大阪の人々の戦争体験に関する情報・資料の収集、保存、展示等を通じて、戦争の悲惨さ・平和の尊さを次世代に伝え、平和を願う豊かな心を育むことを目的に、「大阪空襲を語り継ぐ 平和ミュージアム」大阪国際平和センター(ピースおおさか)の運営を基幹事業としている。</p> <p>○博物館や資料館のような施設は、どれだけの人々が利用したかが第一の関心事であり、その活動の重要指標として捉えられることが通常であることから、当財団においても、「施設(ピースおおさか)の利用促進」を最重点目標とするものである。</p>											
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○当財団の運営費のほとんどは府市の補助金に依拠しているが、平成20年の財政再建プログラム案において「府派遣職員は必要最小限とし、民間活用等により運営コスト抑制」「特別展・企画事業への補助は中止」とされ、それ以降の補助金の減額も相まって、組織体制、事業展開とも極めて厳しい状況にある。このため、自主収入の確保を図りつつ、限られた人的資源・パワーを生かして、法人の目的達成につながる諸事業の効果的な展開が求められている。</p> <p>○先の大戦を自らの体験として語る人は少なくなるばかりであり、当時の人々の思いや戦争の悲惨さ・平和の尊さを伝えていく手段として、ピースおおさかの展示は今後ますます重要となっていくものと考えている。</p> <p>○このため、「大阪中心」に「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えることができる展示」に抜本的にリニューアル(平27.4.30リニューアルオープン)したピースおおさかを基幹として、戦争の悲惨さ・平和の尊さを次の世代へ伝えていくこととする。</p> <p>○なお、展示リニューアル後も、研究の進展や世界の動きなどに対応した柔軟な展示、平和についてのワークショップの展開などソフト面での事業展開に工夫をこらしていくことも必要である。</p> <p>○また、展示そのもののクオリティ、魅力の向上に加え、各種広報媒体や「出かける展示」など館外での利用促進を通じた積極的な情報発信、魅力あるイベント(特別展・企画事業)の実施による誘客のほか、ミュージアムグッズの充実なども必要である。</p>										<p>①学校等に向けた情報提供・働きかけ 外国人等の観光客に向けた情報提供・誘導 各種媒体を活用した情報発信の充実</p> <p>②特別展、企画事業の実施、ミュージアムグッズの充実</p> <p>③平和に関するワークショップの展開等</p>	
活動方針	<p>①(小中学生を中心としつつ)幅広い層に向けて施設の情報発信を行っていく。</p> <p>②魅力あるイベントの実施やミュージアムグッズの充実を図っていく。</p> <p>③平和に関するワークショップを展開していく。</p>											

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (H30)	H29実績	H30目標	H31目標	ウエイト (H31)	中期経営計画 (H27~H31)		H31目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						実績〔見込〕			H31目標	最終年度 目標		
② 効果的な情報発信	入館者総合満足度 「とてもよかった」+「よかった」/全回答(「と てもよかった」+「よかった」+「よくなかった」 +「とてもよくなかった」) ※無回答・不明除く		%	15	95	90	↓ 90	15	90	90	前年度に引き続き、90% という高い満足度を維持す る。	・特別展、企画事業の実施 ・ミュージアムグッズの充実 ・平和に関するワークショップの展開 等
						94						
③ 館外での利用促進	貸出資料利用人数		人	15	140,616	140,000	↓ 142,000	15	142,000	142,000	前年度目標を2000人上回 る目標値とする。	・「府内学校園」以外の情報提供先の 開拓 ・集客力の高いイベントでのPRなど による貸出先の開拓
						145,392						
	出かける展示		回	15	16	12	12	15	6	6	さらなる館のPRのため、中 期経営計画の目標値を上 回ることとする。	・出店経験のあるイベントでの継続実 施 ・集客力のあるイベント等の新規開 拓、展示内容の工夫
						12						

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

④ 自主財源の確保	平和寄付金収入		千円	15	1,430	1,050	↓ 1,155	15	1,155	1,155	前年度目標を10万円上回 る目標値とする。	・寄附の税優遇措置のPR、あらゆる機 会をとらえた説明、協力依頼
						1,302						
⑤ 運営コストの抑制	入館者1人当たりの事業費 (「一般会計」支出合計(事業活動支出額)/ 入館者数)		千円	10	1.1	1.0	1.1	10	0.8	0.8	入館者目標78000人を想定 して試算した目標値とする	・運営コスト抑制の取組みの継続 ・目標入館者数の達成
						× 1.2						

【凡例】

- ・☆はH31年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

CS調査の実施概要

○平成30年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
入館者総合満足度	アンケート（書面・本人記入）	施設入館者	3,641人	通年

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組	平成31年度にめざす状態
<p>リニューアル後の展示等への意見</p> <p>①見学順路（2階→1階→3階など）が分かりにくい。</p> <p>②文字が小さく、見にくいところがある。</p> <p>③照明の暗いところがあり、写真説明などが読みにくい。</p> <p>④（外国人入館者から）もっと英語表記がほしい。</p> <p>※リニューアル後の展示そのものを否定する意見もあり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加害の事実が展示されていない。 ・被害中心で、加害を知らせる面が弱い。 <p>など</p>	<p>①小中学生の引率教員の事前申込(下見)時に見学順路の説明に加え、音声ガイドの墨字版(順路の番号表示あり)を引き続き配付している。また、館内の案内表示を新たに3箇所設置した。</p> <p>②見学頻度の高い1階の展示物である「大阪空襲一覧」「全国空襲状況」は拡大して、3階のワークショップスペースに掲出している。</p> <p>③特に特別展の際に、説明が読みやすくなるよう照明器具の角度調整等を行っており、引き続き実施する。</p> <p>④平成30年度中に、常設展示の一部に英語表記を充実させた。</p>	<p>物理的(デザイン、空間など)・財政的な制約がある中、展示ストーリーや展示のねらいとの整合を図りつつ、見やすく分かりやすい展示となるよう努めていく。</p>

○平成31年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
入館者総合満足度	アンケート（書面・本人記入）	施設入館者	5,000人程度	通年

・CS調査に関する平成31年度目標（再掲）【※成果測定指標の場合】

戦略目標	成果測定指標	単位	H29実績	H30目標	H31目標	CS調査の数値を成果測定指標に設定した理由及び目標値の根拠
				実績(見込)		
②効果的な情報発信	入館者総合満足度	%	95	90	90	<p>(設定した理由)</p> <p>展示施設として時代のニーズに応じたサービス提供やミッション（法人目的）の達成に資するため</p> <p>(何をめざすのか)</p> <p>「ミッション（法人目的）の達成」「利用者満足」「コスト」等のバランスの取れたサービス提供をめざす。</p> <p>(目標値の根拠)</p> <p>中期経営計画による</p>
				94		

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

H30年度の 成果測定指標	単位	H30年度の 目標値	H30年度の 実績値(見込値)
入館者数	人	78,000	69,539

未達成の要因と分析	<p>【要因】①学校関係 ②学校以外 ③その他(外的要因)</p> <p>【分析】</p> <p>①学校関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生の入館者数の低迷 ・府内全体の小中学生の減少（H29:673,423人→664,279人（-1.4%）） ・大阪市外→来館までの安全確保や移動に要する経費が負担になっている。 ・カリキュラムの増加により、校外学習の時間が奪われている。 <p>※未来館学校への理由の聞き取りによると、11校が「校外学習の予定がない」と回答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の平和研修の機会の減少により、ピースおおさかを知らない教員が増え、校外学習先として選択されなくなっている。 ・教育関係権限を移譲された中核市は、教員研修等を市内で実施する傾向がある。 <p>②学校以外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人及び65歳以上については、企画事業等の効果もありH29年度から517人増（+3.1%）となったが、即効性のある事業展開が十分でなかった。 ・外国人についてはH29年度から微増（+4.9%）となったが、急増する来阪外国人観光客を取り込めていない。 ・かつて行われていた企業研修等が減少している。 <p>③その他(外的要因)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度は6月の大阪北部地震や7月の豪雨・猛暑等の異常気象が相次ぎ、来館に影響を及ぼした。 ・館内整理（突発的な修繕工事等）により、5日間の臨時休業を行った。
------------------	---

今後の改善方策	<p>①学校関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員研修等の積極的な誘致による講堂・会議室等の活用 ・教育委員会や校長会への訪問のみならず、各学校の人権担当教員の集まる会議においてもPRを実施し、メインターゲットである小中学校の来館を促進する。 ・府外の教育委員会等でもPRを実施することを検討 ・旅行会社との連携（高校生の修学旅行等） <p>②学校以外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・著名人による発信力あるイベントの実施（継続） ・イベントチラシ等のダイレクトメールを近隣自治会等へ拡大 ・外国人向けとして、英語表記の充実化 ・旅行会社や大阪観光ボランティア協会との連携により、訪日外国人の誘客に努める。
----------------	---

[2]

H30年度の 成果測定指標	単位	H30年度の 目標値	H30年度の 実績値(見込値)
入館者1人当たりの事業費	千円	1.0	1.2

未達成の要因と分析	<p>○入館者数が目標に届かなかった。</p> <p>○常設展示の英語表記の追加や、嘱託職員の採用等により事業費が増加。 84,352,238 (円) / 69539 (人) = 1.2 (千円)</p>
------------------	--

今後の改善方策	<p>○目標入館者数の達成</p> <p>○運営コスト抑制に引き続き取り組む。</p>
----------------	---

■ 平成30年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	H30年度の実績値(見込値)	H31年度の目標値
入館者総合満足度	%	94	90

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>○ピースおおさかのような、戦争と平和について展示する施設においては、様々な意見がある中で90%という目標値自体が相当に高いものであると認識。H30年度では目標を上回っているが、様々な意見を持つ入館者を呼び込みつつ、アンケート等により徴取した来館者の要望や意見を参考にしながらこの状態を維持することに意味があると考えて、90%とした。</p> <p>○H30年度は、アンケートの要望を参考に、常設展示の一部に英語表記の追加や館内の案内表示の設置を行った。今後も入館者総合満足度の維持に努める。</p>
------------------	--

〔2〕

成果測定指標	単位	H30年度の実績値(見込値)	H31年度の目標値
貸出資料利用人数	人	145,392	142,000

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>○貸出資料利用人数については、財団の積極的なPRや電話での依頼なども効果があり、140,000人という高い目標を達成できた。</p> <p>しかしながら、貸出先によって利用人数が左右されることもあり、貸出先の約5割を占める学校では、1校あたりの生徒数が減少傾向にあるため、前年度目標（140,000人）を2000人上回る142,000人の目標値とする。</p>
------------------	---

■ 平成30年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	H30年度の実績値(見込値)	H31年度の目標値
出かける展示	回	12	12

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>○H30年度は、大阪市の支援を得て市立図書館等での開催を集中して実施した（12回中8回）。</p> <p>○しかしながら、通常の財団事務局体制（契約職員4名（うち専門職員2名））という制約ある状況であり、展示先となる場所の確保やスケジュール調整、搬出入などの作業を要するため、府市職員の支援を得つつ、中期経営計画の目標値（6回）を上回る12回に設定する。</p>
-------------------------	--

〔4〕

成果測定指標	単位	H30年度の実績値(見込値)	H31年度の目標値
平和寄付金収入	千円	1,302	1,155

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>○H30年度は、3名の個人の篤志家からそれぞれ10万円以上の高額寄付があり目標を達成することができた。しかしながら、寄付金収入については財団の努力のみならず、相手方の善意によるものであるため、H31年度については、前年度目標（1,050千円）を10万円上回る目標（1,155千円）を設定する。</p>
-------------------------	---